

## 5 これって犯罪？

### ネット上も法律で守られていることを 教える

最近、子どもたちに直接、ネット問題、特にスマホについての講演をすることが増えています。特に、京都府警察のネット安心アドバイザーのまとめ役として、高校での情報モラルについての授業づくりにかかわったり、兵庫県警察と一緒に神戸市の小学校でゼミ生たちとスマホ等の授業をしたりしています。

どちらも警察の方と深くかかわっているので、子どもたちに犯罪について話すことが多いのですが、犯罪にからめての話が意外なほど効果的です。

当初は、子どもたちにいきなり犯罪について話すと、ハードルを上げてしまって逆効果になると考えていましたが、実際は、子どもたちの食いつきは非常にいいです。子どもたちはどんどん真剣な表情になっていきます。「冷静に事実を伝える」ことが重要なのだとつくづく思います。

実際に子どもたちに提示しているプリントを一部ご紹介します。次ページのようなプリントを配付し、まず個人でやってから、5～6人のグループに分かれて討議させます。

討議後、答え合わせをすると、全問正解する子はまずいません。「ネットには何を書いても大丈夫」と思っていた子どもたちの顔が青くなります。そのあとに解答を配付して解説します。

# これって犯罪？

年 組 ( )

逮捕・書類送検の可能性があると思う数字に○をつけましょう。

- ① 「この学校を爆破する」とネットの掲示板に書き込む。  
→大騒ぎになり、学校は一斉下校した。
- ② 「おまえを殺す」とLINEに書き込む。  
→何度も嫌がらせを書いた。
- ③ 「○年○組の○○はカンニングした」とツイッターでつぶやく。  
→実際の学校名、クラス、名前を書いた。
- ④ 「××、きしょい」とLINEに書き込む。  
→クラスのグループチャットで何度も書いた。
- ⑤ 人のホームページを勝手に書き換えた。  
→LINEでID、パスワードを聞き出した。

○をつけた数

個

# これって犯罪？ 解答

- ① 「この学校を爆破する」とネットの掲示板に書き込む。  
→大騒ぎになり、学校は一斉下校した。  
**威力業務妨害罪** 懲役3年以下 罰金50万円以下
- ② 「おまえを殺す」とLINEに書き込む。  
→何度も嫌がらせを書いた。  
**脅迫罪** 懲役2年以下 罰金30万円以下
- ③ 「〇年〇組の〇〇はカンニングした」とツイッターでつぶやく。  
→実際の学校名、クラス、名前を書いた。  
**名誉毀損罪** 懲役3年以下 罰金50万円以下
- ④ 「××、きしょい」とLINEに書き込む。  
→クラスのグループチャットで何度も書いた。  
**侮辱罪** 拘留（30日未満）または科料（1万円未満）
- ⑤ 人のホームページを勝手に書き換えた。  
→LINEでID、パスワードを聞き出した。  
**不正アクセス禁止法違反** 懲役3年以下  
罰金100万円以下

## 5個すべて！

## 指導・かかわりで 迷わない！ためのポイント

### ⑤ これって犯罪？

#### 迷わない！ポイント①

### 冷静に事実を伝える

「ネットには何を書いてもいい」と思っている子どもたちに解説すると、かなりショックを与えることになります。ですから、怖がらせたり、きつい言葉を使う必要はありません。繰り返しになりますが、冷静に事実を伝えればいいのです。

#### 迷わない！ポイント②

### 相談するよう被害者に訴えると、より効果的

「こんなことを書き込むと捕まるぞ」と脅すよりも、「こういう書き込みをされた場合は、いつでも言うておいで。警察と協力したら、罪に問うことも可能です」と被害者に訴えかけると効果的です。加害者予備軍への抑止力になります。

#### 迷わない！ポイント③

### ネットで逮捕されることが多い理由

強調するのは、「ネットの書き込みは証拠が残ること」です。「自分や相手のケータイ・スマホ上で書き込みを消したとしても、携帯電話会社等には書き込みは残っている。警察へ被害

届が出た場合、証拠として見る事が可能だ」と伝えます。

「言葉は消えるけれど、ネットの書き込みは消えない。だから犯罪として明らかになる」と伝えると効果的です。

迷わない!ポイント④

## 「ネットでの匿名は不可能」と伝える

子どもたちは、「匿名での投稿」をおもしろがる傾向がありますが、これが諸悪の根源だと考えています。実際のところ、犯罪行為の場合、誰がいつ書き込んだか、わかります。

例えば、捜査令状が出ている容疑者が、携帯電話の電源を入れた途端に居場所がわかって逮捕されたという報道がよくあります。

「大人たちがその気になれば、匿名で書いたつもりでも、誰が書いたかわかります。匿名は不可能に近いと考えたほうがよい」と子どもたちに伝える必要があります。

